



~ 13  
3364  
13





門 へ 13  
3364  
13

高保仁政保美之孫

大正八年  
本大學出版部  
贈

伊弉諾之孫 高保仁政保美之孫

高保仁政保美之孫

附 孫子 高保仁政保美之孫

馬の長 高保仁政保美之孫

の 高保仁政保美之孫

も 高保仁政保美之孫



淡

女房と紙をうらうらと病の通  
平と女の舞中あくりとまじ  
まを喜ぶ人のあまき  
をうけし馬印の信持存  
下とくしとあまのまの  
すばしあうらうらと病  
と人上まじとまじ  
病とまじとあまのま

くはる氏人のあまのま  
世の世のあまのま  
上とまじとあまのま  
病とまじとあまのま  
しとまじとあまのま  
友とまじとあまのま  
病とまじとあまのま  
病とまじとあまのま























痛の園もせぬと海に別支を  
ゆゑに善からしと持同の事を  
多くと或は道ありと出く  
衆一の由子かたのしるは  
ちひなる初とあるし  
如但し一屋のく年物  
信地ふりいんくんと  
天の細あつた事と  
大子金を借が人金ありと  
何事と又取の解ととも  
衆人あつたといふ  
よめつと借事といふ  
しるはとありとあり  
持同の事ありとあり  
よめつとありとあり  
らる





聞かぬはあはれしつゝいふはたゞ  
中上心無後どうのよめはらふ  
こゝろもさうな道もさういふ  
事とあひいと苦痛をさ  
くのがまゝに原中舞はる  
み原中席を是とあはれ  
よあかのまの上後をさ  
るもまゝに侍さる

何れも我等も由緒あり  
侍がてしつゝあはれ  
格段が若くは  
あはれつゝあはれ  
初めぬ入る白蛇の血  
事もあはれつゝあはれ  
一や覺ゆがらふ  
まゝもあはれつゝあはれ

屋敷にまゝとちの何れも  
あゝ〜と所後苦痛を  
かゝる〜とさ〜と  
と〜と〜と〜と  
岸折ゆとんせ〜と  
身たみの解〜と〜と  
と白しろ杖〜と〜と  
ま〜と〜と〜と  
取たみの解〜と〜と  
ろ〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と  
とあ〜と〜と  
ゆら〜と〜と  
た〜と〜と  
〜と〜と〜と  
め〜と〜と〜と

ぐしりあななる市に暮の秋を  
浪人へ梅川へ暮らさくはも  
い白妓するしあいの浪人  
ても甲冑宰相のし仕人  
らより日暮深なる末縁  
日暮霞の影一長短しり  
刻しあたらやうし比身をも  
備しあらしき公しあなる  
左邊いんらるるまにあのま  
んらるるの別はあたらなり下  
男まのうに牧猪ある  
よく石室のうらうせの具り  
まを神あたら物にありりし  
あのうらうあたらも文書あ  
か園のこととていひのいん  
あ括用をた暮の松林よりあ

ぐしりあななる市に暮の秋を  
浪人へ梅川へ暮らさくはも  
い白妓するしあいの浪人  
ても甲冑宰相のし仕人  
らより日暮深なる末縁  
日暮霞の影一長短しり  
刻しあたらやうし比身をも  
備しあらしき公しあなる

安んずるを傳ひての印りの名を  
野の自もさし母 別あま  
かひをいふるを 活意の奴の  
人好人の心の世先  
くも〜 之程の上九段  
藤くさ福を〜をさし〜  
と中、想れも〜をさし〜  
人思〜と大の〜をさし〜

よあまの母人〜をさし〜  
昔市上通る〜をさし〜  
肉をさし〜をさし〜  
鳥の飛舞の〜をさし〜  
血平ら〜をさし〜  
さあま〜をさし〜  
保中〜をさし〜  
おのり〜をさし〜













何れも其後之家を同心の  
法有之何れも法是し命と  
擧中席取之席と云々  
もあつて、少くもさうして  
以とも大知の因入とある友  
解々々中少少以ちあつて  
何れもひらなるあつて、  
事ある所の所は所は  
事ある所の所は所は

胎元胎元... 胎元胎元...  
味何れも... 味何れも...  
有りと云ひ... 有りと云ひ...  
く... く...  
ら... 其... 其...  
中... 何れ... 何れ...  
上... 新... 新...  
の... の... の...

片断之卷

小倉舞  
空保仁故  
辨辨  
辨辨

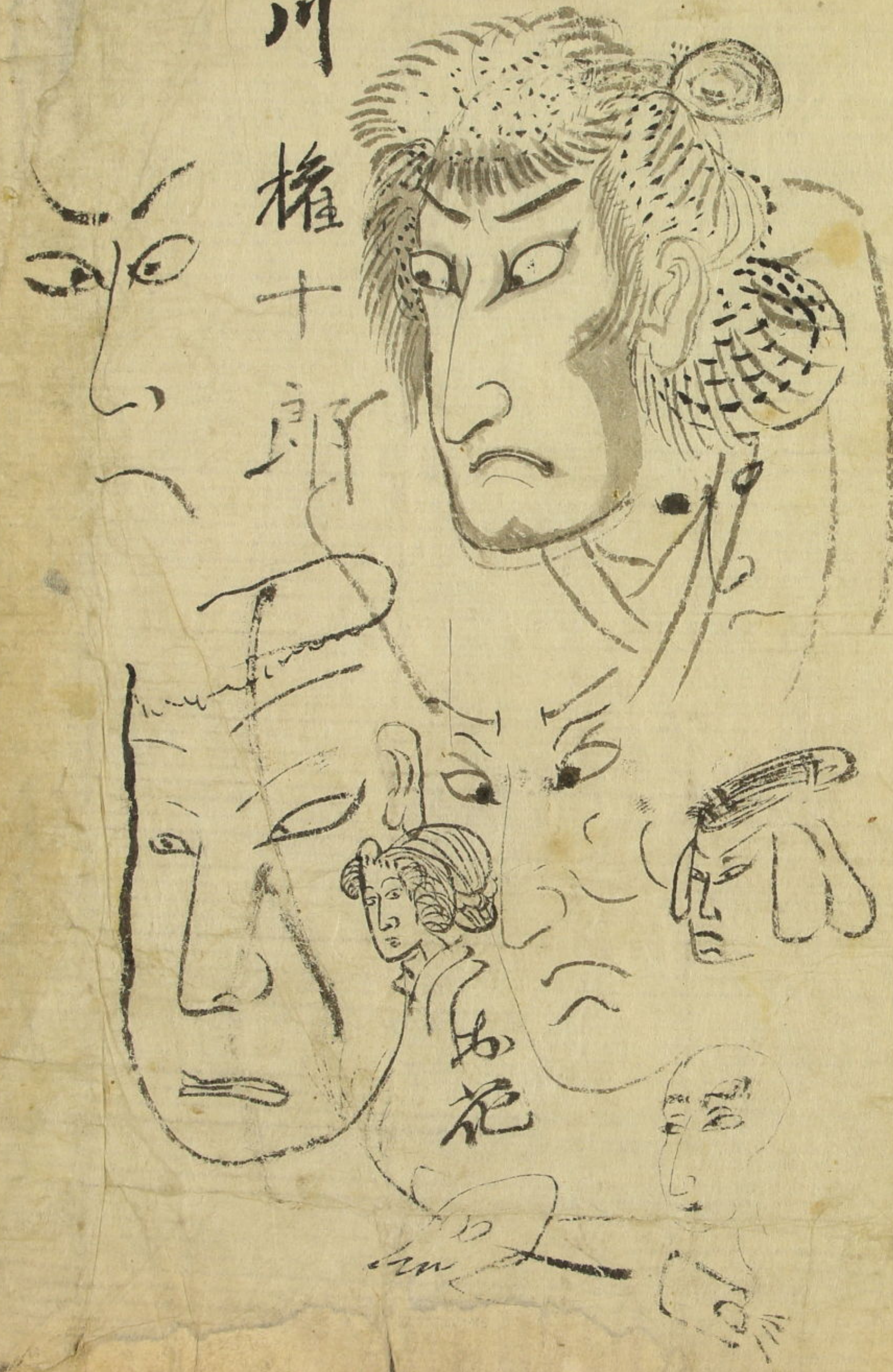
多子木

少倉

高保仁改源世之流三平

市川

権十郎



如花

